

Particle

花のしらべは 数えうた
花のしらべは 数えうた

風のしらせは 蜜夜の祈り
風のしらせは 蜜夜の祈り

遙けきおとは 我身の鼓動
遙けきおとは 我身の鼓動

微かにゆれる白昼の
手にした粒の光輪に
虚ろな夢のあとさきを見た—

function

祝りの鐘が小さき室を鳴らすとき
暴かれるのはあの日の密言

彼方の仄かな黒色を
囁きに重ねかさねて塗りつぶす

聴こえない 聴こえないのは己の声で
放てない 放てないのはわたしの縁

蘭奢待

珠 ゆれる つくよみて
華 けふる ことさらに

記憶の惑いはたちこめる
坐しているのは時の風—
手中にしたのは 古来の予感

Mother

すべてをふくんだ白色は
たゆたう波にあそびゆく

その指ひとつのたしかな震え
なんと世界は饒舌だろう

たとえ墮ちゆくさだめでも
きょうの陽にいのちはおどる

冷たいひかりも ひかりだと
冷たいひかりも ひかりだと
微笑むかわりに大地を蹴った